

「空き教室」を生かした教科教室型の教室配置の成果

日立市立坂本中学校校長

本校は、生徒数の急激な減少により、いわゆる「空き教室」が多くあります。令和5年度は、これを生かして、教科教室型の教室配置とすることにしました。学力の定着の一層の推進のためには、つまずきへの指導のために習熟度に応じた複数の資料や、ICTの有効活用のために進度に応じた機器を常設できる環境が必要だとの教員の意見を取り入れたものです。

無論、新設校にあるオープンスペースのような煌びやかな施設ではありませんが、限りある工夫で、生徒の学びの改善が行われ始めました。

教室に日常的に移動することによる、「授業は待っていれば受けられるもの」から「授業は自ら参加して受けるもの」へという意識の転換が図られているかと考えています。

開始から2か月たちますが、これまでの成果を4点挙げてみます。

-
- 1 教科の専門性や特色を生かした学習環境づくりができるようになった。
 - 2 つまずきへの指導のために「習熟度に合わせて複数の学習プリントを配置すること」や豊かな学びの展開のために「限りあるICT機器を有効活用すること」ができるようになった。
 - 3 教科教室に向かう途中、生徒は職員室を通り過ぎる形が多くなったこともあり、「並べる展示」から「学び合う展示」への工夫ができるようになった。
 - 4 学級の教室が、道徳科、特別活動等に特化された場所となり、学びの過程が見える環境を整えやすくなった。

これらは、手前味噌でよい点ばかりしか見えていないのかもしれませんが。「移動が多く、生活が落ち着かない。」という趣旨の意見もあるかもしれませんが。学校評価アンケートなどを活用して、改善していけたらと考えています。

令和5年6月14日